

ちびっ子鬼物語 「夏休みの思い出」の巻

※登場人物

- ① 子鬼のトシちゃん(性格は、ちよつとヤンチャですが、頑張り屋です。)
- ② 子鬼のコウちゃん(性格は、おっとりしていますが、頭の回転が速いです。)
- ③ 子鬼のイサムちゃん(性格は、人に優しくクラスのまとめ役です。)
- (三人は笑鬼小学校の同じクラスの一年生です。)
- ④ 近所のヤマ兄ちゃん(性格は、元気で優しく、小さい子の面倒を良く見てくれます。)
- ⑤ トシちゃんのお母さん(性格は、明るくて話し好きです。)

ヤマ兄ちゃん



「トシちゃん達には小学校へ入学して初めての夏休みになります。夏休み一日目の予定は、朝七時に起きて八時から勉強し、十時になったらコウちゃんイサムちゃんと三人で近所のヤマ兄ちゃんの家で集合し、セミ取りを教えてもらいます。お昼を食べてから午後は、秋川で泳ぎ方を教えてもらいます。さて、どんな夏休みの思い出ができるのでしょうか?」

▼トシちゃん ジリジリジリ〜、ジリジリジリ〜。あ朝だ。目覚まし時計を止めよう。顔を洗ってから朝飯を食べよう。…いただきます。

「そしてトシちゃんは朝飯を食べ終つてから、宿題に取りかかるのでした。」

▼トシちゃん あ。もう9時半だ。セミ取りに行く用意をしなくっちゃ。虫かご、手ぬぐい、麦わら帽子を持って。これで忘れ物はなし。行つてきま〜す。

▼トシちゃんのお母さん 暑いから、小さい梅干し一個と「ツップ」一杯の水を飲んで行きなさい。はい。

「そしてトシちゃんは、途中でコウちゃんとイサムちゃんと合流し、三人でヤマ兄ちゃんの家に向かうのでした。」

▼トシちゃん、コウちゃん、イサムちゃん こんにちは。ヤマ兄ちゃんいますか!」

▼ヤマ兄ちゃん みんな、こんにちは。待つたよ。

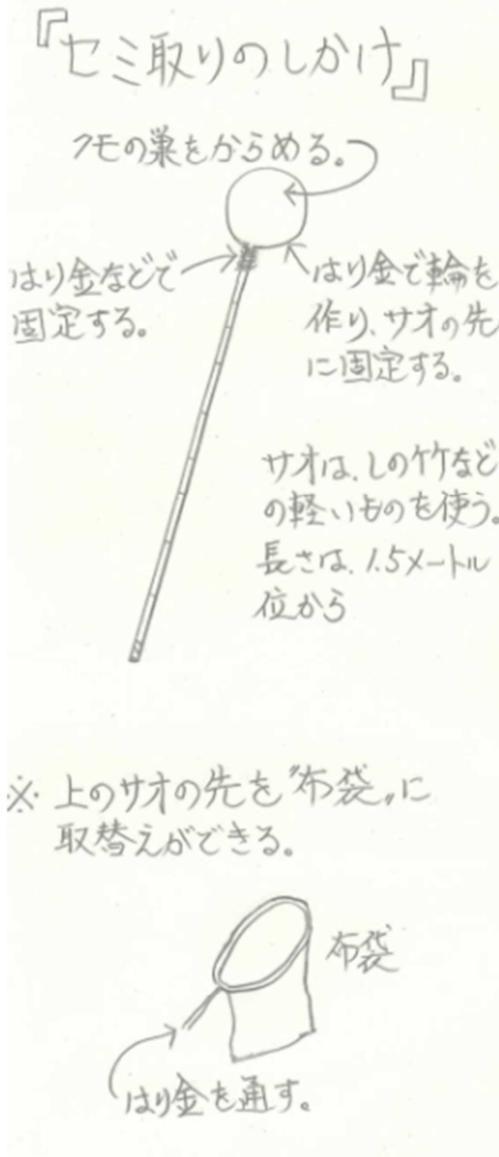
「三人は、ヤマ兄ちゃんから初めてセミ取りを教えてもらえる嬉しさで一杯です。」

▼ヤマ兄ちゃん セミ取りの場所は家から近い公民館南の林にするよ。虫かご、手ぬぐい、帽子は持つてきた〜あります。

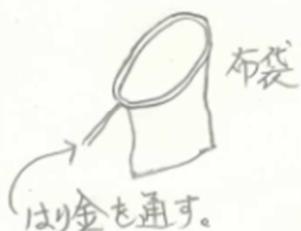
「四人は公民館へ向かいます。近くなると「ジ〜ジ〜」「ミンミンミン〜」などセミの鳴き声がかんたんに大きくなってきます。そしてセミ取りの林に到着するのでした。」

▼ヤマ兄ちゃん みんな麦茶を飲んで。僕のかあちゃんからの差し入れだよ。

「ヤマ兄ちゃんは、三人にセミの取り方を話すのでした。また、今日のしかけは、さお先にはり金で輪を作つたものを取り付け、そこにクモの巣をからめ取つたものを使います。」



※ 上のサオの先も布袋に取替えができる。



①

▼ヤマ兄ちゃん しかけは一つしかないのでジャンケンで順番を決めよう。

▼トシちゃん、コウちゃん、イサムちゃん 最初はグー。ジャンケンポン。よ〜し一番だ。

▼ヤマ兄ちゃん 一番はコウちゃんに決まりました。さあ次の順番を決めるよ。

▼トシちゃん、イサムちゃん 最初はグー。ジャンケンポン。よ〜し二番だ。

▼ヤマ兄ちゃん 二番はイサムちゃん、三番はトシちゃんに決まりました。

「そしてヤマ兄ちゃんは、しかけの先にクモの巣を上手にからめ取りました。四人は、静かに静かに、セミを探すのでした。… ヤマ兄ちゃんがミンミンゼミを見つけました。そして、みんなにミンミンゼミがいることを小声で伝えました。」

▼コウちゃん あ。ミンミンゼミがいた。よ〜し取るぞ!

「コウちゃんは、セミ取りのしかけを持って、セミのいる木にそつと近づきました。そしてしかけの先のクモの巣を、木にたかっているセミに押しつけると、セミは身動きできずにジ〜ジ〜と鳴いているのでした。」

▼コウちゃん 取つたぞ! 取つたぞ! これがミンミンゼミなんだ。

「コウちゃんはセミをやさしく虫かごに入れる時、笑顔がこぼれ落ちるようでした。…」

次はイサムちゃんの番です。しかけを持って、みんなでセミを探るのでした。」

▼イサムちゃん あ〜。黒っぽくてジ〜ジ〜鳴くセミがいる。

▼ヤマ兄ちゃん 話し声は小さくしないとセミが逃げちゃうからね。はい。

▼イサムちゃん セミは、逃げないでまだ木にいる。よ〜し取るぞ!

「イサムちゃんは、セミのいる木にそつと近づき、セミを取りました。」

▼イサムちゃん 取つたぞ! これがアブラゼミなんだ。(イサムちゃんニッコリ)

▼トシちゃん 今度はオイラがセミを取ります。

▼コウちゃん トシちゃんセミがいるよ! 僕の指先を見て。

▼トシちゃん このセミは、さつきコウちゃんが取つたミンミンゼミだよ。取るぞ!

「トシちゃんは、セミのいる木にそつと近づいた時、セミは気づいてジ〜ジ〜と鳴きながら逃げて行ってしまいました。その時トシちゃんはセミにオシッコをかけられてしまいました。残念!…」

その後、三人は何度も何度もセミ取りをして、虫かごの中はいっぱいです。」

▼ヤマ兄ちゃん お腹がすいたよね。家へ帰つてお昼飯を食べよう。家に帰つたら虫かごのセミを家の人に見せてね。お昼飯を食べながら一休みしてね。午後は秋川で泳ぎ方の練習をします。兄ちゃん

「みんなは午後の水泳に備えて、ご飯を食べに家へ帰って行くのでした。」



「ここまで読んで頂きありがとうございます。前編は「二」で終わりです。

後編を楽しみにしててください。

②

▼トシちゃん だいたい。帰ったよ。あくお腹すいた！かあちゃんセミいっぱい取ったよ！見て。・・コウちゃん
イサムちゃんもいっぱい取ったよ！

▼トシちゃんのお母さん よかったね。お腹すいたでしょう。「飯たくさん食べてね。・・ヤマ兄ちゃんて本当に
面倒見の良いお兄ちゃんだね。自分も遊びたいはずなのに、夏休み中ずくと午前中
はセミやカブト虫取りをして、午後は川遊びを教えられてありがたいね。何かお礼
をしよう。近いうちに、ヤマ兄ちゃんのお母さんへトウモロコシを届けておくね。」

▼コウちゃん ヤマ兄ちゃん来たよ！僕が一番に到着。
「トシちゃんコウちゃんイサムちゃんとヤマ兄ちゃんは、十分な水分補給とご飯をたくさん食べて、
一休みです。・・一休みした後、三人はヤマ兄ちゃんの家へ向かうのよ。」

▼トシちゃん、イサムちゃん ヤマ兄ちゃん来たよ！

▼ヤマ兄ちゃん 三人とも約束した時間に来たね。午後は秋川で泳ぎ方を教えるからね。それから、みんな
浮き輪持ってきたよね。はい。

「ヤマ兄ちゃんと三人は、秋川に架かる金棒橋をめざして出発するのでした。・・到着。」

▼ヤマ兄ちゃん では、浮き輪をつけてね。上流から下流まで案内するよ！ちよつと冷たくて気持ちいいね。
ほくとだね。上流のこの辺は浅くて川をくだると橋の周りは背が立たないくらい深くなるよ。

あ。魚がいっぱい泳いでいる。オイラも見たよ。ヤマ兄ちゃんあの魚の名前はなんて言うの？ハヤツ
て言うんだよ。・・もう少し下ると橋の下流はまた浅くなってくるよ。

▼トシちゃん、コウちゃん、イサムちゃん 川下りって楽しいよ！ほんとだね！

▼ヤマ兄ちゃん 次は泳ぎ方だよ。川でブク(溺れる)しない方法を教えるよ。兄ちゃんがやってみせるよ。みんな
見ててね。『浅瀬であおむけになって、目・鼻・口を水面に出して大きく息を吸う。手足の力
をぬいて。息を少し吐いて少し吸う。これを繰り返す。』背が立たない場所に行っちゃったら、
落ちて着いてこの泳ぎをしていると、下流の浅い場所に必ず行くことができるよ。

「ヤマ兄ちゃんが見守る中、三人は何度も何度も練習して、この泳ぎを覚えたのでした。
それから毎日、三人は午前中に宿題を片付けてから、ヤマ兄ちゃんの家で集合し、セミやクワガ
タ、カブト虫取りをして、午後は秋川のいつもの場所で泳ぎを楽しんでいました。」



▼ヤマ兄ちゃん トシちゃんコウちゃんイサムちゃん夏休みも残りが一週間になったので、セミ取りや水泳は、
今日で終わりにします。この夏休みで楽しかった遊びはなんだ？オイラは公民館の林でセミ
をいっぱい取ったことですよ。僕は大ききなクワガタとカブト虫を取ったことかな。秋川の水
が澄んでいて魚が沢山いたこと。もう一つは泳げるようになったことです。兄ちゃんもみんなと
毎日遊べて楽しかったよ。また遊ぼう。・・明日からは残っている宿題と家のお手伝いをしてくだ
さい。はい。分りました。はい。

「ヤマ兄ちゃんと三人は、夏の思い出の場所を後に家路につくのでした。・・そして翌日。」

▼コウちゃん、イサムちゃん こんにちは。トシちゃんいますか。

▼トシちゃん こんにちは。コウちゃんイサムちゃん二人でよく来たね。遊びの話！

▼コウちゃん 遊びの話でなくて。宿題の読書感想文もう書き終わった？読むものが見つからなくて書くこと
ができないんだよ。イサムちゃんも同じなんだ。

▼トシちゃん オイラも書いていないんだけど、読むものは決まっているんだ。なに。なに。かあちゃん手話サー
クルに入っているんで、今年の一月、一緒に公民館に行った時『ちびっ子鬼物語・勉強の鬼の巻』が
あったので読んでみたんだ。内容は子鬼三人の友情と一生懸命がんばることの大切さを分かり易
く書いてあったんだ。感想文はこれに決めているんだ！コウちゃんイサムちゃん公民館に行つてみ
ようよ。あれから六ヶ月経っているから、新しい物語ができてくるかもしれないよ。

「さつそく三人は公民館へ向かうのよ。」

▼トシちゃん、コウちゃん、イサムちゃん こんにちは。『物語』を読みに来ました。

▼公民館職員 こんにちは。よく来たね。『ちびっ子鬼物語』は「勉強の鬼の巻」「駄菓子屋のおばちゃんへの恩返
しの巻」「サダちゃん転校の巻」の三作になりました。読んでつてね。

「三人はそれぞれの物語に読み入るのでした。・・。」

▼トシちゃん コウちゃんイサムちゃん、物語を読んだ感想はどうだった！

▼コウちゃん 僕は「駄菓子屋のおばちゃんへの恩返し」の巻だね。感動したよ！

▼イサムちゃん 「サダちゃん転校の巻」には感心したよ。転校する小学一年生と三人の友だちが成長してい
く物語。ちよつぱり泣きました。

▼トシちゃん これで三人とも感想文の読み物は決まりだね。はい。はい。

「三人は、読書感想文を書くために物語が欲しいことを職員に話したのでした。」

▼公民館職員 職員が書き始めた『ちびっ子鬼物語』気に入ってくれてありがとうございます。読書感想文が
完成したら見せてもらえる？はい。はい。はい。またお友だちを誘って遊びに来てください。待つ
てるよ！。次の物語お願いします！また来ます！

ちびっ子鬼物語って、自分が体験したお話のように思えちゃうんだけど。・・夢かな？
僕もなんだ！三人とも同じ夢を見たのかな？不思議な物語だね？

「夏休みの思い出」の巻 おわり

